

## 1 梨の開花および生育について

梨の生育は、4月上旬まで平年並みに推移しましたが開花期に入り高温や降雨等の影響により、開花の進みが早まり、いずれの品種も平年に比べ1日程度早くなりました(開花が早かった昨年と比べて6~8日遅い)。また、展葉の遅れや波打ちした縮葉など「萎縮病」と思われる症状の樹(主枝、亜主枝)の発生がやや多い状況です。

平成29年 呉羽地区日本なし開花状況

(吉作平場基準)

品種名	開花始め			満開		
	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比
幸水	4月17日	6	0	4月20日	6	△1
豊水	4月15日	7	1	4月17日	7	△1
あきづき	4月16日	6	0	4月18日	6	△1
新高	4月14日	9	2	4月16日	8	0

△は早いことを示す(例: △1は「1日早かった」)。

## 2 黒星病の発生状況について

### ① 落葉からの子づつ胞子飛散

黒星病の感染源の一つである落葉からの子づつ胞子は、降雨のタイミングで飛散し、モニタリング調査では4月13日以降、昨年より多く飛散しています(表1)。

また、落葉処理された園地からの胞子飛散は極めて少ない状況ですが、無処理園地では4月13日にまとまった飛散が確認されています(表2)。

表1 落葉からの子づつ胞子数の推移(モニタリング調査)

調査日	3月14日	3月19日	3月24日	3月29日	4月3日	4月8日	4月13日	4月18日
H29	0.2	0.6	0.0	0.6	0.6	18.0	101.4	366.4
H28	1.7	1.3	0.0	2.2	2.8	20.4	70.2	6.0

※数値は胞子採取器(スライドガラス1.8mm四方)に付着した胞子数の平均値(産地内5カ所)

※モニタリング調査では、胞子の動向を把握しやすくするため、人為的に落葉をかきあつめ胞子を飛散しやすくしている調査であり、この結果は落葉処理効果とは無関係です。

表2 落葉処理園地における子づつ胞子数の推移

調査日	3月14日	3月19日	3月24日	3月29日	4月3日	4月8日	4月13日	4月18日
処理園地	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.3	0.4	0.5
無処理園地	未調査				0.0	4.0	101.5	9.0

※数値は胞子採取器(スライドガラス1.8mm四方)に付着した胞子数の平均値(落葉処理4園地および無処理1園地)

落葉無処理園地で胞子が飛散!!

### ② 気象データによる感染危険度・発病危険度(千葉梨防除ナビより)

本年も千葉県で開発されたシステムを利用して、園地の温度と湿度データから黒星病の感染危険度と発病危険度を数値化(0~9の10段階評価)し、情報発信を行っています。

4月11日~25日に感染危険度は1回、潜伏期間を経た15日後(4月26日~5月10日)の発病危険度は発生せず、昨年同時期と比べて発生回数は少ない状況でした(昨年:感染危険度、発病危険度ともに2回)。

【平成29年黒星病感染・発病危険度】

月日	感染危険度指数	潜伏期間	月日	発病危険度指数
4月11日	1	約15日	4月26日	0 (危険に至らず)

☆重要☆: 今後、黒星病芽基部病斑や果実、葉への発病が見られた場合、速やかに除去し園地外で処分してください。

### 3 これからの防除について

☆防除は「降雨前」、SSは「低圧、低速、全列走行」を心掛けましょう

回数	散布月日	薬剤名と濃度	散布量	主な対象病害虫	防除実施日
5	4月30日～5月2日 (落花10日後)	マネージDF (DMI剤) 6,000倍 トレノックスフロアブル 500倍 ハチハチフロアブル 2,000倍	300ℓ	黒星病、赤星病、芯腐れ症 (胴枯病菌) ニセシシトダニ、クワコカイガラムシ アブラムシ類	
特	4月27日～ 5月3日頃	コンフューザーN 150本/10a		リンゴコクモンハマキ、モシクイガ ナシトシクイ	
6	5月8日～10日	ユニックス顆粒水和剤 47 2,000倍 トレノックスフロアブル 500倍 サイアノックス水和剤 1,000倍	300ℓ	黒星病、心腐れ症、 赤星病 アブラムシ類、シクイムシ類 ハマキムシ類	
7	5月18日～20日	デランフロアブル 1,000倍	300ℓ	黒星病、輪紋病、心腐れ症	
8	5月28日～30日	ベルコートフロアブル 1,500倍 ファルコンフロアブル 6,000倍	300ℓ	黒星病、輪紋病 ハマキムシ類、ケムシ類	

- ① 防除間隔は10日以上空かないように注意する。
- ② カメムシ類の常発園、シクイムシ類多発園では、アクタラ顆粒水溶剤(2,000倍)を散布する。
- ③ 【心腐れ症】前年多発した園や本年多発の恐れがある園、または散布間隔が開き過ぎた場合には、5月下旬までにトップジンM水和剤(1,500倍)を散布する。

### 4 「幸水」の1回目摘果作業の終了は5月20日頃(満開後30日)を目標に!

「幸水」の1回目の摘果作業は、大玉生産に不可欠な作業なので満開30日後までに終了しましょう。また、早期摘果は樹勢の維持回復にも有効です。

満開30日後までに終了させることが、幼果の細胞分裂に重要!

### 5 コンフューザーNの設置は広範囲で!

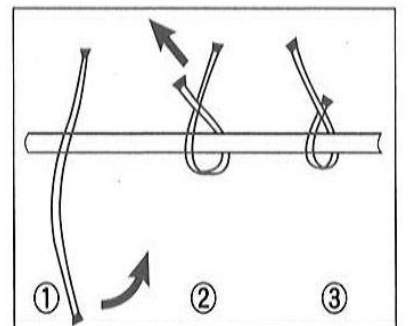
昨年、シクイムシ類の被害果実が発生した園地では、本年も発生密度が高まる恐れがありますので、早急に「コンフューザーN」の設置をお願いします。

#### 設置方法

- 1) 設置本数: 150本/10a
- 2) 設置時期: 4月27日～5月3日
- 3) 設置間隔: 約2.6m間隔(3間植えの園地では1樹当たり4～4.5本の割合で設置)

#### 設置上の留意事項

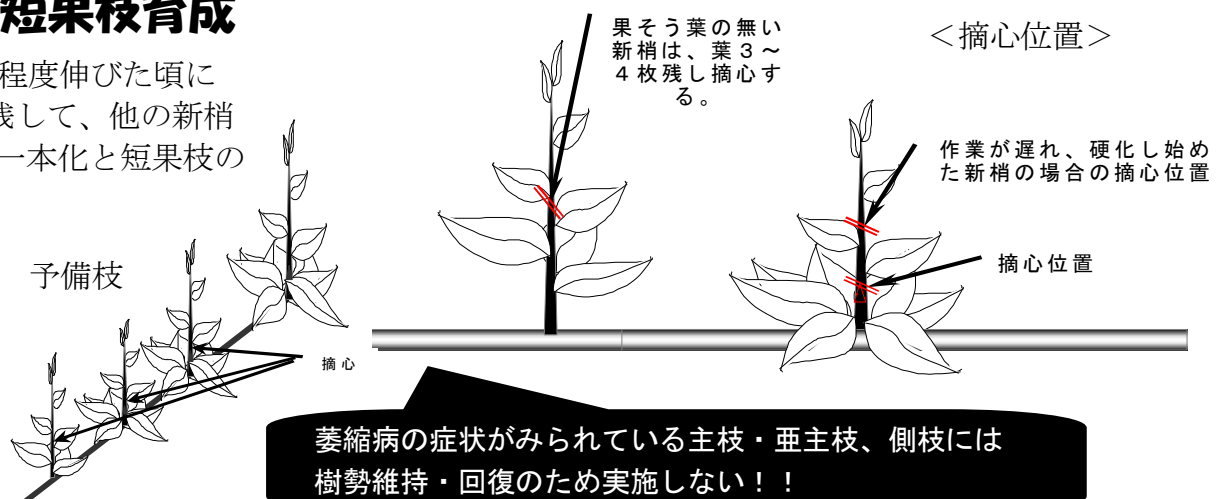
- 1) ほ場の外周は有効成分濃度が薄くなるため、多めに設置する(単独園や道路等に面している園では、外周の防風ネットを張り、有効成分の飛散を防止する)。
- 2) ほ場内に未成木樹や間拔等で樹の植わっていない場所があっても、これら場所を含めほ場全体に設置する
- 3) 傾斜地では斜面上側を多めに、下側は少なめに設置する。
- 4) 周辺にモモやウメがある場合には、これらも含めて設置する。



梨棚の番線に巻きつけてから、一端を輪にくぐらせて固定してください(強く引っ張り固定すると端が切れる恐れがあるので、注意して下さい)。

### 6 予備枝の一本化と短果枝育成

予備枝の新梢が10～15cm程度伸びた頃に(5月上中旬)先端の1本を残して、他の新梢に摘心を実施し、予備枝の一本化と短果枝の育成を図りましょう。



萎縮病の症状がみられている主枝・亜主枝、側枝には樹勢維持・回復のため実施しない!!